

2023 年 1 月 20 日

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

2022 年度日本PR大賞が決定

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」
羽生 結弦 氏
(プロスケーター)

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
内閣府承認 NPO 法人全国てらこやネットワーク

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：牧口征弘、所在地：東京都港区）はこのほど、2022 年度の日本 PR 大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に“プロスケーターの羽生結弦 氏”を、日本 PR 大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に“内閣府承認 NPO 法人全国てらこやネットワーク”をそれぞれ選出・決定し、1 月 19 日（木）開催の「新春 PR フォーラム 2023」において表彰式を行いました。



2022 年度 日本 PR 大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」 羽生 結弦 氏 (プロスケーター)

日本PR大賞は、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」としてパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人を、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」には、長年にわたり企業や市井で独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域あるいは団体の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人または組織を、それぞれ表彰するものです。1998年に日本PR大賞として創設して以来、年1回の表彰を行っています。

両賞の選考・授賞理由は以下のとおりです。

<2022年度 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 羽生 結弦 氏 プロスケーター

■授賞理由

2022年7月に競技を引退しプロ転向を表明。それまでにオリンピックの連覇など、世界の競技大会で偉業を達成し、日本や世界の人々を魅了してきた。怪我との闘いを乗り越えながらジャンプに打ち込む姿が多くの人々に感動と勇気をもたらすとともに、競技に対する自らの取り組みについて丁寧かつ真摯に語る姿勢は、アスリートのコミュニケーションのお手本となるものである。現在は、アイスショーのプロデュース、出演をしながらSNSなど様々なメディアも活用して表現者として積極的に活動している。

■受賞メッセージ

このたびは「2022年度 日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」に選出いただき、ありがとうございました。

今回の受賞であらためてPRの意味を知りました。PRとは、パブリックリレーションズの略語で、その意味は、自分のことを一方的にアピールするのではなく、周りの声や意見をきちんと聞いたうえで、自分の考えを説明し、話し合ったことをしっかりと行動で示すことだと。そして、それを続けることで、自分と周囲の人々、その先の社会や世界と理解しあい、良い関係を築くことだということが分かりました。

これまでの自分を振り返ってみると、競技会やショーなどで、自分の思いを表現してきましたが、いつも、コーチ、そして、応援していただいた方々とコミュニケーションを取りながら、毎回、より高みを目指して表現してきたと思います。今回、表彰していただき、これまでの自分の行ってきたことも、PRの活動の一つではないかと実感することができました。

これからはプロスケート選手として活動、表現をしていきたいと考えています。今まで以上に、自分を支えていただく方々とコミュニケーション等をしっかりととり、お互いを理解し、それぞれの思いや考えを取り入れ、一つのものを作り上げていきたいと思っています。これからも応援、よろしくお願いします。

■羽生氏プロフィール

生年月日：1994年12月7日、28歳

宮城県仙台市出身。

2014年ソチオリンピック、2018平昌オリンピック、2大会連続で金メダル獲得
ジュニアとシニアの主要国際大会完全制覇、男子フィギュアスケーターでは初めて「スーパースラム」達成

2022年7月、プロアスリートへ転向を表明、

11月、12月には単独アイスショー「プロログ」を開催

2023年2月26日にはフィギュアスケーター初の東京ドームで単独公演「GIFT」アイスストーリーも開催される予定

<2022年度 日本PR大賞 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」>

■受賞者 内閣府承認 NPO 法人全国てらこやネットワーク

(理事長) 上江洲 慎 (事務所) 鎌倉市大船 1-25-23 千里ビル 3階

■授賞理由

精神科医森下一氏の提唱により、子どもたちが困難な状況におちいらない未然予防の取り組みとして2003年に「鎌倉てらこや」がスタートした。

子どもたちの居場所づくりと体験活動の支援を地域全体の取り組みとして行っている。そして、2009年からは「全国てらこやネットワーク」を設立し、鎌倉という一地域だけの活動として終わらせるのではなく、ここで得たノウハウや設立理念を全国に広め、世代や立場を超えた地域のコミュニティづくりを目指した点が評価ポイントとなった。

地域の独自性や多様性に配慮しつつ、子どもたちや若者の相互交流の場の提供、スタッフの育成、各種サポート等、よりよい社会実現に努めている。

今後はさらにその輪を広げ、地域の宝、国の宝である子どもたちを守り、育てる場として、全国にネットワークを発展させていくことを期待したい。

てらこやネットワーク
翔子書

■活動内容

- 1982年 精神科医 森下先生が姫路市に森下神経内科診療所を開設。
- 1986年 森下一先生により姫路市にフリースクール「京ロスコラ」を開設。
- 1989年 不登校児のための全寮制学校、生野学園高等学校（文科省認可）を開設。
- 2002年 「鎌倉てらこや」実行委員会が発足。
- 2003年 「鎌倉てらこや」設立。建長寺において2泊3日の合宿事業が開催される。
早稲田大学社会学部池田教授の協力により学生たちがゼミの一環として参画。
- 2006年 「鎌倉てらこや」が日本青少年会議所褒章（教育青少年関係推進部門）受章。
- 2008年 鎌倉に「てらこやハウス」という場ができる。
- 2009年 「全国てらこやネットワーク」が設立。
- 2010年 「全国てらこやネットワーク」が内閣府認証NPO法人格取得。
- 2016年 「全国てらこやネットワーク」がグッドデザイン賞（地域、コミュニティづくり／社会貢献活動）を受賞。

※日本PR大賞とは

日本PR大賞は、日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）の公益事業として、パブリックリレーションズの普及・浸透のために、「企業と社会の共生」、「公益の実現」などに貢献した人・組織を表彰する制度である。第1回は1998年度。

<ご参考>

■選考方法

日本パブリックリレーションズ協会会員および一般から受賞候補者・団体の推薦を募り、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」・「シチズン・オブ・ザ・イヤー」それぞれ10組程度の候補者リストを顕彰委員会で決定。

候補者リストに基づき、当協会会員による投票を行い、その投票結果を踏まえて顕彰委員会内で最終決定する。

■推薦基準

- ◇ 日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」
経済活動、文化・スポーツ、社会、教育などの分野でパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人
※推薦条件
・過去1年間で日本の社会に対し、ポジティブなムーブメントを創出した人

- ◇ 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
長年にわたり企業や市井で独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域あるいは団体の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPOを含む）

■パーソン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和4年度（2021年度）

根本 かおる氏（国連広報センター所長）

令和3年度（2020年度）

池江璃花子氏（競泳選手）

令和2年度（2019年度）

ジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）

平成30年度（2018年度）

渡辺 直美氏（お笑い芸人）

平成29年度（2017年度）

加藤 一二三氏（棋士）

平成28年度（2016年度）

小池 百合子氏（東京都知事）

平成27年度（2015年度）

リーチ・マイケル氏（ラグビー日本代表主将）

平成26年度（2014年度）

唐池 恒二氏（九州旅客鉄道株式会社（JR九州）代表取締役会長）

平成25年度（2013年度）

佐藤 真海氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR推進部・パラリンピアン）

平成24年度（2012年度）

ドナルド・キーン氏（米コロンビア大学 名誉教授）

平成23年度（2011年度）

佐々木 則夫氏（サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）監督）

平成22年度（2010年度）

池上 彰氏（ジャーナリスト）

平成21年度（2009年度）（この年までは「日本PR大賞」）

辻井 いつ子氏（ピアニスト 辻井 伸行氏の母親）

平成20年度（2008年度）

該当者なし

平成 19 年度 (2007 年度)

東国原 英夫氏 (宮崎県知事)

平成 18 年度 (2006 年度)

川島 隆太氏 (東北大学 加齢医学研究所教授)

平成 17 年度 (2005 年度)

野口 聡一氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部宇宙飛行士)

平成 16 年度 (2004 年度)

古田 敦也氏 (日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ選手)

特別賞 故 伴 信雄氏 (日本パブリックリレーションズ協会 初代理事長)

平成 15 年度 (2003 年度)

北川 正恭氏 (早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事)

平成 14 年度 (2002 年度)

川淵 三郎氏 (前日本プロサッカーリーグ チェアマン)

特別賞 茂木 友三郎氏 (日本醤油協会会長、醤油PR協議会会長)

平成 13 年度 (2001 年度)

野口 健氏 (登山家)

平成 12 年度 (2000 年度)

柳井 正氏 (株式会社ファーストリテイリング 代表取締役社長)

平成 11 年度 (1999 年度)

乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

企業部門賞受賞者 カルロス・ゴーン氏 (日産自動車株式会社 COO)

文化・スポーツ部門賞 松坂 大輔氏 (プロ野球選手 (西武ライオンズ))

社会部門賞受賞者 乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

特別賞 福川 伸次氏 (電通総研所長)

平成 10 年度 (1998 年度)

中坊 公平氏 (弁護士・株式会社住宅金融債権管理機構 代表取締役社長)

企業部門賞受賞者 沢田 秀雄氏 (株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役社長・スカイマークエアラインズ株式会社 会長)

文化・スポーツ部門賞 KONISHIKI (元大関小錦・タレント)

社会部門賞受賞者 向井 千秋氏 (宇宙飛行士・医師)

特別賞 猪狩 誠也氏 (東京経済大学 教授)

■シチズン・オブ・ザ・イヤ―歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和4年度（2021年度）

COVID-19 多言語支援プロジェクト

令和3年度（2020年度）

一般社団法人「ダイアログ・ジャパン・ソサエティ」

令和2年度（2019年度）

一般社団法人「注文をまちがえる料理店」

平成29年度（2018年度）

気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂

平成29年度（2017年度）

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

平成28年度（2016年度）

くまモン（熊本県マスコットキャラクター）

平成27年度（2015年度）

いすみ鉄道株式会社

平成26年度（2014年度）

NPO法人富岡製糸場を愛する会

平成25年度（2013年度）

NPO法人本屋大賞実行委員会

平成24年度（2012年度）

大廻 政成氏（財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事）

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRS J）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147